

湘南藤沢学会 活動報告書

国際学会「EKSIG: International Conference organized under the DRS Special Interest Group on Experiential Knowledge」における研究発表

政策メディア研究科 川崎和也

1. 活動目的

申請者（政策メディア研究科：川崎和也）の修士研究である「バイオハッキングファッション：持続可能なバイオマテリアルの開発と型紙手法の検討」をロッテルダム・ニューテクノロジーインスティテュートで開催されるデザインの国際学会「EKSIG: International Conference organized under the DRS Special Interest Group on Experiential Knowledge」において発表することを目的としている。本活動は、国際学会における海外の研究者との交流・議論を通して、広義には環境対策が求められているファッション産業にとって有効な素材研究成果を提案すること、狭義にはデザイン学やファッション学という新しい研究領域の発展に寄与することを目的としている。

本活動は以上の成果を、1) 論文発表 2) 展示発表 3) 口頭発表 の3点の方法で発表を実施する。以上の成果とそれにいたる過程は、当該学会の対象領域であるデザイン学にとって重要な知見になると考えられる。デザイン学の発祥は1960年代のイギリスであると言われており、現地におけるイギリスの研究者との直接的な意見交換は非常に重要だと考えている。また、その内容を本塾を初めとした日本の研究機関に共有し、今後の研究推進に応用することで、さらなる研究の発展・推進を見込むことができる。

2. 活動概要

a. 基本情報

日程：2017年6月19日-6月21日 場所：ロッテルダム・ニューテクノロジーインスティテュート

b. EKSIG Presentationへの参加

本カンファレンスと並行して開催された展覧会に研究の成果物である作品を出展した。展覧会の様子については以下である。

c. 論文の掲載

本カンファレンスが発行する冊子・電子冊子に掲載される論文を提出。掲載に至った。内容は、2010年以降、生物工学と素材科学の分野で勃興しているバイオテクノロジーを応用した新しい素材開発を背景として、ファッションデザインに応用可能な素材とその加工のための方法論を開発するものである。本研究は、科学的な方法論を用いた連続的な試作を繰り返す

研究手法である「デザインを通じた研究 (Reserach through Design)」という方法論を採用している。

